

一般社団法人 日本生態学会

2019年度 第3回通常理事会

1. 日時：2019年12月14日（土）13:00～17:00

2. 場所：東北大学東京分室 会議室B

3. 出席者：

・理事会構成員（20名・定足数10名以上）

（理事）占部城太郎、永松大、三木健、黒川紘子、久米篤、吉田丈人、巖佐庸、内海俊介、大澤剛士、佐竹暁子（Web参加）、鈴木まほろ（Web参加）、陶山佳久、東樹宏和（Web参加）、中野伸一、丑丸敦史、西廣淳（Web参加）、宮下直、可知直毅（全理事中18名参加）

（欠席理事）湯本貴和、中川弥智子

・監事：陀安一郎

・オブザーバー：仲岡雅裕、伊東明、小池文人

・事務局：鈴木晶子、橋口陽子（Web参加）

4. 議事概要：

定足数10名を超える18名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第42条に従い占部城太郎会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第46条に則り、占部城太郎会長、陀安一郎監事とし、議事録作成者は永松大理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）

- ・資料1（庶務報告・会計報告）に基づいて永松専務理事より日本生態学会誌別冊「フィールド調査における安全管理マニュアル」を希望会員43名に送付した（9月24日）こと、学会ドメインにSSL証明書を導入した（10月7日）こと、次々期会長候補および次期代議員選挙の開票を龍谷大学瀬田キャンパスにて行った（11月6日）こと、学術振興会に2020年度科研費（研究成果公表B）計画調書など応募書類一式を送付した（11月6日）こと、一般寄附金2万円の申込みがあり受け入れた（7月31日）ことなど庶務12件、会計12件の報告があった。
- ・資料1に基づいて黒川会計担当理事より2019年12月上旬までの会計状況として、Springer社より昨年度の売上還元金194万円の収入があったこと、個体群生態学会出版企画費が35万ほどになること、概ね予算通りの執行状況であるとの報告があった。

2. Ecological Research 編集委員会報告

- ・資料2に基づいて仲岡編集長より編集状況、名古屋大会ERシンポ、フォーラム、特集予定、BES大会出展の報告があった。
- ・BES大会へのブース出展は日本生態学会と3英文誌の宣伝になり海外との学会連携を議論する機会になるため今後も継続できればよいのではないかと。ESA

と BES にブース出展をすることで日本人参加者も増えるのではないかとの提案があった。

- ・ 久米出版担当理事より 3 英文誌について IF(2018)が ER:1.6 PE:1.5 PSB:2.1 であったこと、PE、PSB の編集体制と各学会との関係を見越した将来計画調整が必要、保全誌は CC-BY ライセンスに基づいた OA 化を実施する方向で調整しているが生態誌のライセンスの扱いをどうするか新編集長と検討を開始するとの報告があった。

3. 日本生態学会誌編集委員会報告

- ・ 資料 3 に基づいて伊東編集長より編集状況、審査状況、刊行状況の報告があった。別冊のフィールド調査における野外安全マニュアルも発刊できたとの報告があった。

4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料 4 に基づいて小池編集長より刊行状況、編集状況と J-Stage への早期公開を始めたことが報告された。
- ・ 2020 年に投稿規定の変更を予定、大きな変更点として非会員への投稿資格付与、掲載料の導入、別刷り有料、著作権などを検討しているとの報告があった。掲載料の免除対象、国際的なデータベース名表記については引き続き検討する。

5. 大会準備状況報告、フォーラム開催報告

- ・ 資料 5 に基づいて内海大会企画委員長より大会準備状況報告があった。シンポ 31 件、自由集会 29 件、ポスター 928 件、高校生ポスター 60 件、口頭発表 298 件で神戸大会を上回る規模になる見込み。名古屋大会のフォーラムは 7 件となった。
- ・ 授賞式について、受賞講演を行う受賞者については各人の講演時にそれぞれ受賞理由紹介と賞状授与を行う。
- ・ 大会実行委員より大会表紙イラストを使用してクリアファイル作成希望があり、理事会からは大会参加者へ配布してはどうかとの提案があった。
- ・ 可知理事より自然保護フォーラム報告があった。

6. 各種委員会報告

<キャリア支援>

- ・ 資料 6 に基づいて宮下理事より名古屋大会準備報告（フォーラム・こども生態学講座・キャリア支援相談室）、ジェンダーバランスの分析結果投稿についての報告があった。名古屋大会ではキャリア支援ブース参加企業より大会の見学の打診があり了承された。
- ・ 可知理事より男女共同参画学協会連絡会より日本生態学会への幹事学会の打診（2022 年 11 月より 1 年間）があったと報告があり、引き受ける方向で議論を始めることになった。

<生態系管理>

- ・ 資料 6 に基づいて西廣理事より次期活動方針と新規委員の公募に 6 名の応募

があったことが報告された。

<生態学教育専門委員会>

- ・ 資料 6 に基づいて丑丸理事より報告があった。
- ・ 委員については運営を考えると公募は難しいが 3 月の委員会を公開し、会員であれば自由参加できるようにしたいとの希望があり了承され、会員一斉メールで告知することとした。
- ・ 「生態学入門」改訂について学部 1、2 年生向けに容易な内容に見直すこと、それとは別に大学院生が使えるような専門性の高い教科書を作成する方向で検討している旨報告があった。
- ・ 大会時のフォーラムへ地元の高校教諭等が参加できる方法を検討し、参加者を事前に把握しコメンテーターとして招待することは可とすることを確認した（委員会対応）。
- ・ 学会と社会との連携は必要であり、今後同委員会の企画がフォーラムの枠を超えるものになってほしいとの意見があり来年の大会に間に合うように検討することになった。

7. 学術会議・学術振興会報告

- ・ 資料 7 に基づいて巖佐理事より次期日本学術会議会員・連携会員について女性や若手（30～40 代）の推薦が望ましいこと、学会からの情報提供が推薦と同等であることなど報告があった。
- ・ 資料 7 に基づいて吉田理事より生態科学分科会が 12/16 開催予定であること、IUBS 分科会より 2022 年日本で開催予定の総会で生態学会と連携したシンポジウム企画など、日本のプレゼンスを見せてほしいとの希望があることなど報告があった。

8. 学会賞選考委員会報告

- ・ 資料 8 に基づいて三木選考委員長より報告があった。今後英語での応募に対応できるように応募要項英語版の準備を検討すること、応募書類の書籍は応募者に返却するとの報告があった。
- ・ 宮地賞の受賞者が全員同じ年の奨励賞受賞者であることから、誤解をうまない文面をウェブページの選定理由のところに追加するべきとの意見があり、審査委員会で検討することになった。

9. 会長候補および代議員選挙報告

- ・ 資料 9 に基づいて三木庶務担当理事より報告があった。過去 3 回郵送投票希望がなかったため、郵送投票廃止を 2020 年の総会にて提案、HP での告知など会員からの意見を募り、意見をもとに廃止する場合は 2021 年総会に廃止を規則変更提案することになった。

10. EAFES、INTECOL 報告

- ・ 資料 10 に基づいて中野理事より INTECOL Board 選挙に日本から 1～2 名ほど候補者を出す予定との報告があった。
 - ・ EAFES は 12/26 に中国で準備会議があり占部会長と中野理事が出席すること、次期大会は 4 月フフホトで開催し、遅くとも 1 月中には大会案内の HP 開設する予定との報告があった。
- 1 1. 学会サーバの外部サービス移転 (G Suite) 可能性についての検討報告
- ・ 資料 11 に基づいて大澤理事より学会サーバ提供サービスの外部化に向けた報告があった。メールサービスとデータ共有サービスについては G Suite の導入を前向きに検討し、推進の方向で 2 月に具体案を提案することになった。
- 1 2. 生物科学学会連合報告
- ・ 資料 12 に基づいて宮下理事より国際生物学オリンピックについての今後の予定、大学入試「生物基礎」及び「生物」における用語の扱いについての要望書提出を検討していること、生科連が新代表になり来年度に生物多様性に関するシンポジウムが予定され、宮下理事が協力することになっている等の報告があった。
- 1 3. 日本分子生物学会との連携について
- ・ 占部会長より 12 月の分子生物学会大会での合同シンポが盛況であったこと、3 月の生態学会大会でも合同シンポを行うことが報告された。
- 1 4. その他
- ・ 神戸大会で開催した自然史学会連合共催フォーラム報告について学会誌掲載準備を進めていることが報告された。

審議事項

第 1 号議案 日本生態学会功労賞について

- ・ 資料 13 に基づいて占部会長より説明があり、それぞれの推薦者から推薦理由が述べられ、齊藤隆氏、可知直毅氏、甲山隆司氏の 3 名を功労賞受賞者として理事会より推薦することが全会一致で承認された。

第 2 号議案 委員の承認 (ER 編集委員会・生態誌編集委員会)

- ・ 資料 2 に基づいて仲岡 ER 編集長より説明があり、新 ER 新編集委員が全会一致で承認された。
- ・ 資料 3 に基づいて伊東生態誌編集長より説明があり、新生態誌編集委員が全会一致で承認された。

第 3 号議案 大会のフォーラムに関する理事会申し合わせについて

- ・ 資料 5 に基づいて吉田理事より説明があり、修正案が全会一致で承認された。

閉会：以上の議事を終え、17時00分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2019年12月14日

会 長 : 占部 城太郎 ㊟

監 事 : 陀安 一郎 ㊟